

～ 共感する～

symPathy

Miyazaki Physical Therapy Association

VOL.04

Contents

第31回九州PT・OT 合同学会報告



PTの現場
宮崎リハビリ最前線
医療保険の現場から



抗菌グッズと感染対策
PTワンポイントアドバイス
ブロック活動報告

生涯学習委員会
研修レポート



写真は合同学会の会場
"SUN HOTEL PHOENIX"です。



第31回九州理学療法士・作業療法士合同学会報告

第31回九州理学療法士・作業療法士合同学会

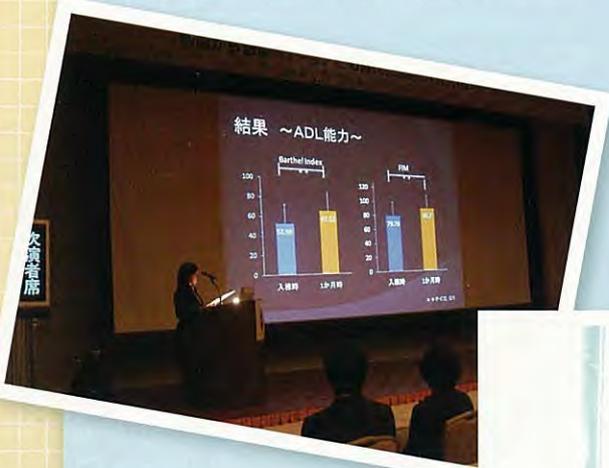
学会長 武田 禎彦

去る平成21年11月14・15日に第31回九州理学療法士・作業療法士合同学会を、宮崎県作業療法士会との共同にて無事開催することができました。これもひとえに、ご後援・ご協賛いただきました宮崎県・宮崎市をはじめとした各団体の皆様のおかげと厚く御礼申し上げます。

今回の学会は、テーマを「創造から想像へ」～今、この時代に求められている力～とし、諸先輩方に創造していただいた力に加え、新たにこの時代に求められる力を我々が想像し、新たな時代への創造へとつなげてゆく学会とし、多方面から参加者の皆様に力を与えていただけるような講演等と会員による発表を実施しました。学会に参加していただいた皆様にとって新たな想像を掻き立てるものとなり、そのことが時代の求める力となっていれば幸いです。

運営に当たっては、理学療法士・作業療法士の両士会から246名もの会員の皆様が準備委員・運営スタッフとしてご協力いただき、しかも予想以上の参加者であったにもかかわらず、スムーズにそして盛大に開催することができました。大会長として、携わっていただいた多くの皆様に、この場を借りて厚く感謝申し上げます。

今回の学会を通して、宮崎県理学療法士会は新たな力を想像することができました。今後は、次のステップへと踏み出していきますので、更なるご理解ご協力をいただけますようお願い申し上げます。



第31回
九州理学療法士・作業療法士合同学会

■会期
2009年11月14日(土)～15日(日)

■会場
サンホテルフェニックス 国際会議場

第31回九州理学療法士・作業療法士合同学会

副準備委員長 吉田 敏朗

前日の豪雨が嘘のような秋晴れの中開催された合同学会、九州の理学療法士会・作業療法士会会員がどのくらい参加して頂けるのか不安になりながら壇上に着座して行われた開会式は、これから始まる2日間の盛会を予測する多数の参加者が来場されました。大会期間の総参加者数は1456名でありその内訳として正会員数は1298名で(PT788名、OT510名)、8年前宮崎市で行われた第23回合同学会参加者数(当時774名)の約2倍の会員が今回の大会に参加した事になります。この事は、その間に多数の理学療法士・作業療法士が輩出した事が最大要因であろうが、今学会で企画した特別講演をはじめ、セミナー・教育講演に若い会員が興味を抱いて多数足を運んで(実際に駐車場から会場へ徒歩で来られる会員さんもいて)頂いたものと安堵しています。

ちなみに第1会場は最終日の公開講座である石井雅史選手・智子夫人の講話が終了するまで満席であり、立ち見の参加者もいるくらいで好学力の高さを実感されました。

2年前の暮れに第1回目の準備委員会を行い大分学会の視察等を経て演題募集～演題査読採択作業そして学術講演企画講師依頼から運営実務等、宮崎県の理学療法士会と作業療法士会が一致団結して実った学術大会であり、2年後に開催される第46回日本理学療法学術大会に繋がる貴重な経験をさせて頂いたと感じています。

最後に今回の学術大会テーマである「創造から想像へ」という原点回帰から、これからの未来図を様々な視点から創造する事を少しでも会員の皆様へ発信した学会になったのではと想像し副準備委員長の立場からお礼申し上げます。



第31回九州理学療法士・作業療法士合同学会

事務局長 木村 潤一

私事ですが、九州理学療法士・作業療法士合同学会の準備委員として、お仕事をさせて頂くのは、今回が2度目の経験でした。前回、8年前の第23回の合同学会では、今回副学会長を務めた現宮崎県作業療法士会会長の関一彦先生と共に、会場運営局の責任者として、開催までの準備と当日の運営に走り回っておりましたが、今回は、事務局長としての仕事を任せられました。事務局の仕事は、前回の運営局とは全く異なった業務内容になる為、本当にその機能を十分発揮する事ができるか否か不安な中、準備を進めておりましたが、作業療法士会の金子茂稔先生をはじめ、理学療法士会・作業療法士会から選出された事務局各部の精鋭スタッフの目をみはる活躍に支えられて、無事に事務局としての大役を果たす事ができました。早いもので、昨年の学会開催から4ヶ月が過ぎようとしています、今あらためて、事務局スタッフのまとまりのよさとフットワークの軽さを実感しています。また、大勢の理学療法士会・作業療法士会会員ボランティアの皆様にも、日頃の業務がお忙しい中、準備段階から様々なご協力を頂きまして、深く感謝申し上げます。学会を大盛況のうちに終える事ができたのも、ひとえに皆様のお力添えがあったからと痛感しております。皆さん、本当にありがとうございました。

九州理学療法士・作業療法士合同学会は、理学療法士と作業療法士が共同で開催する唯一無二の学会です。全国的に見ても価値のある本学会をこれからも継続していけるように、今回の学会で、ボランティアとして活躍された若い会員の皆さんが、8年後の宮崎での開催時には、それぞれの部局の責任者として、大きく成長されている事を願ってやみません。

宮崎県理学療法士会は、平成23年の第46回日本理学療法学術大会に向けて、現在準備委員会が動いております。宮崎県作業療法士会も全国学会の立候補を検討しているとお聞きしております。今回培った人的交流を基礎に、理学療法士会・作業療法士会が今後さらに、情報交換をしながら、協力・発展できればと考えています。今後とも宜しくお願い致します。



第31回九州理学療法士・作業療法士合同学会

運営局長 田村 幸嗣

第31回九州合同学会開催のちょうど1年前、第30回大分学会の視察で「ピーコンプラザ」に行った時に受けた衝撃を未だに覚えています。広い会場でゆったりとしたスペースが確保されており、PC関係は業者が無線LANを構築しておりとてもスマートにそしてスムーズに流れていました。宮崎の会場に置き換えてみると…参加者数に対しては十分なスペースが確保できておらず発表後の談話スペースもとれない状況、予算の関係で無線LANは組めない環境、駐車場がなく2台のシャトルバスの運行で移動にストレスはか

からないか？ 周辺に食事を取れるお店がないため昼食の問題をどうするのか？ 運営局の前にとてつもなく大きな壁があるように感じました。しかし、実際に会議を重ねて進めていくうちに様々なアドバイスや意見を頂き良い方向に導いて頂きました。ボランティア

募集に対しては、会員から246名の積極的な参加を頂き、朝早くからの集合にも関わらず市外・遠方からも参加を頂きました。結果として1400名を超える参加があり、シェラトンの駐車場を埋め尽くすほどの盛況だったことは2年後の全国学会に向けての大きな弾みになったと思います。

当日、運営に当たって頂いたスタッフの皆様にはこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

第31回九州理学療法士・作業療法士合同学会

学術局長 常盤 直孝

昨年の11月14日(土)15(日)の両日、前日までの大雨でどうなることかと心配された標記の学会が1400名を超える方々の参加を得て開催され、成功裏に終了致しました。本学会の特徴は、全国でも九州だけという理学療法士(以下PT)と作業療法士(以下OT)が合同で学会を行うということです。今回は学術局長という立場で学会運営を経験させて頂きました。これまで面識のなかったOTの先生方と一緒に仕事をさせて頂いたのですが、セミナー、講演等の企画から演題登録、査読の業務、そして演題の振り分けから学会誌作成(学会誌の構成、誤

字、脱字、誤植のチェック)、当日の運営等の業務の過程で、様々な難問が次から次へと降りかかってきました。しかし、全員の協力でしっかり乗り切ることが出来ました。PTとOTが共通した目標に向かって、協力してひとつの仕事を終えることが出来たことに、何とも言えない達成感を感じたとともに、OTの先生方の存在の大きさも改めて感じる事が出来ました。学術局のあるスタッフが言っていた「チーム学術」最高でした」という言葉がすべてを物語っているように思います。

今回の学会を通した様々な経験と出会いは、私たちの今後のすばらしい財産になると思います。ボランティアとして参加して頂いた会員の皆様を含め、運営に携わって頂いたすべての皆様に心より感謝申し上げます。



合同学会印象記

潤和会記念病院 理学療法士

古賀 大介



昨年の11月14～15日にかけて宮崎市内で九州理学療法士・作業療法士合同学会が開催され、多くの参加者で賑わいました。

学会では講演や研究発表などの多彩な催しがあります。今回は当院から私を含め5件の研究発表がありました。研究というと最先端の精密機器を活用するような研究をイメージしてしまいます。しかし実際には症例の経過を追ったり日常のリハビリの中からデータを集めたりした報告が多く身近な内容がほとんどです。

研究発表の方法には、スライドをスクリーンに映し出して一般の講演のように発表する口述発表と、掲示板に印刷した用紙を貼り出してその前で発表するポスター発表に分かれます。私はこのうちの後者で発表する機会を得ました。

発表ではたくさんの参加者に囲まれてかなり緊張しました。覚えてきた原稿も全部飛んでほぼアドリブになりましたが、なんとか無事に終えることができました。参加者も真剣に聞いてくださり熱意の高さを感じました。

また、様々な発表を聞き最新の知識を得ることもできました。こういった学会が盛んに行われることで、効果のある治療が患者さんに提供できるものと考えます。私はこれからも積極的に参加していきたいと思いました。





PTの現場

宮崎県内のリハビリテーションの現場で、理学療法士として特化した仕事をされている皆さんにお話をお聞きしていく企画を立てました。今回は、県内でも数少ない呼吸療法認定士の資格を持ち、呼吸・循環器疾患を専門にリハビリテーションに日々取り組まれている、宮崎市郡医師会病院リハビリテーション室 新地達哉さんをお尋ねし、お話を伺いました。

Q1 新地さんが、呼吸器疾患や循環器疾患に対してのリハビリに取り組み始めたきっかけは何でしょうか？



担当する患者様の多くに呼吸や表情が辛そうなまいきなり体を動かす事に疑問を抱き、全身状態の把握やリスク管理を勉強していきたいと思い取り組み始めました。

宮崎リハビリテーション学院を卒業して3年目の頃、「急性期の理学療法」をテーマにした研修会での出来事でした。その中で「発症後間もない右被殻出血で、意識がもうろうとし酸素マスクもしている患者さんにどういった理学療法をしますか？」という質問がありました。当時は潤和会記念病院で脳卒中片麻痺の患者様に携わることが多く、今振り返ってみるとその頃の私は合併症の予防と言いながらも麻痺だけにとらわれた理学療法を行っていたように思います。講師の先生から一言「まさか急性期に関節可動域訓練から始めるPTはいませんよね」と言われた瞬間、ドキッとして先生の顔を見れなかった事を覚えています。

Q2 こちらはどのような患者さんがこれられるのでしょうか？

当院は地域医療支援病院として認定されており、入院されている患者様は開業医からの紹介もしくは救急搬送の方がほとんどです。依頼状況は循環器疾患や整形外科疾患が多く、その他には消化器外科術後や緩和ケア、廃用症候群に伴うADLの低下した患者様の依頼を受けております。また当院ではそれぞれの疾患の安定とともに退院もしくは転院となるため、できる限り合併症を予防し病棟スタッフと協力しながらADLの向上を図っていくこと（院内連携）、回復期リハビリテーションのための連携病院や医院への橋渡しをしていくこと（地域連携）が私達の役目であると実感しております。

Q3 新地さんの一日の仕事内容とそれを継続していく上での秘訣を教えてください。

朝からほとんど病棟に張り付いて患者様の理学療法を行っているのが現状です。その他に1日1回1時間程度の心大血管疾患運動療法、運動処方作成や運動指導のための呼気ガス分析装置を使用した心肺運動負荷試験の実施等が日課となっております。正直、継続の秘訣とはっきり言えるものはないのですが、まだリハビリテ-

ーション室が開設されて間もなく、患者様の理学療法と組織の事とやっているうちに今を迎えています。



Q4 理学療法士として努力されているところは？

病院で働いていると1人の患者様に何人もの医療スタッフ関わっています。「チーム医療」とよく言われますが他職種との連携はなかなかうまくいかないものだと感じることがあります。そこで私は、できる限り他部門のスタッフとコミュニケーションを図る事を心掛けています。主治医や病棟看護師、薬剤師、管理栄養士、ケースワーカー、生理検査技師、臨床工学士、医事課などそれぞれの専門的な視点や意見が安全に理学療法を進めていくための情報となり、知識となり、発見にもなります。また、私たち理学療法士の存在をアピールする事にもつながると考えています。

宮崎リハビリ最前線 医療保険の現場から

Q5 やりがいを感じる時は、どのような時ですか？

最初は不安を抱きながら表情硬くしていた患者様が何か1つのことができるようになったときの緊張がとれた笑顔が見られた時や、「またリハビリするのを楽しみに待ってます」（いやだと拒否される事もありましたが）、「動くのが楽になりました」など何気ない一言がうれしく思いますし、またがんばろうと思います。

Q6 新地さんにとって理学療法とは？そして後輩理学療法士に一言お願いします。

疾患ばかりにとらわれてしまうと患者様が何を求め、どんなサインを送っているのが見落としてしまうような気がします。患者様は、疾患を患ってしまうと同時に不安を抱えながら社会の1人として生活をしていく事になります。治療技術を磨く事はもちろん大事な事だとは思いますが、患者様1人1人を人として受け入れ身内同様の目線で接し、できるだけその人らしく社会復帰できるように支援していくのも私たちのできる理学療法ではないかと感じています。

Q7 新地さんが今熱中している事は何ですか？

これまで興味のある事に対しては何でも

まず体験してみましたが続いているものはあるようなないような…。今は子ども達との共通の趣味？としてキャンプを始めました。活動範囲は県内ですが、手軽にゆったりとした時間を過ごすのがモットー。この時期になるとキャンプ地情報を見ながら今年はどこに行こうか、1回でも多くと自分で年間スケジュールを組んだりするのは楽しいです。去年はどんな環境でも耐えられるベグ（スノーピークのソリッドステーキ）にこだわりました。専用のベグハンマーでベグを打ち込むときの音はなんともいえません。今年是一品でもこだわり料理ができればと思っています。



Q8 最後に、PTとして父として、そして夫として、仕事と家庭を両立させる秘訣を教えてください。

我が家は妻、小学2年生の長女、5歳の次女、2歳の長男の5人家族です。私自身まだ父として夫として未熟であり、ここで家族を持つPTとして秘訣を述べる立場でもないですが、ただ、私がこうして仕事ができる



いるのは妻の理解と家族の支えがあるからこそだと思っています。仕事の忙しさを理由に子どもの事や家事の事は妻に任せっぱなしです。仕事をセーブしつつ家庭を支えてくれている妻には感謝の気持ちでいっぱいです（なかなか口には出せませんが）。家族の存在というのはいろんな面での活力となります。がんばりすぎずストレスを発散しながら心のゆとりを持つ事が大切だと思います。仕事と家庭のバランスを取りながら、をテーマに精進します。

宮崎市郡医師会病院 リハビリテーション室

新地達哉さんプロフィール

略歴

- 1975年 都城市に生まれる。
- 1998年 理学療法士免許取得
- 1998年 潤和会記念病院に勤務
- 2002年 市民の森病院に勤務
- 2003年 宮崎善仁会病院に勤務
- 2006年より 宮崎市郡医師会病院に勤務

資格等

- 心臓リハビリテーション指導士
- 呼吸療法認定士
- 宮崎心臓リハビリテーション研究会世話人
- 九州心臓リハビリテーション研究会世話人



抗菌グッズと感染対策に対する

ワンポイントアドバイス

特別編

毎回専門のPTより様々なワンポイントアドバイスを頂きます。
今回は特別編として、「抗菌グッズと感染対策」についてです。アドバイザーは、
潤和会記念病院 看護部 感染管理認定看護師の須志原陽子さんです。

日本では「抗菌グッズ」の人気の高いようです。例えば、抗菌加工された洗面器、コップ、便座、きりがいい程の種類があります。

なぜ、人気があるのか。

おそらく抗菌加工されていけば、よくわからない感染症にかかる危険が減ると考えるからではないでしょうか。

しかし、抗菌加工されていけば感染症にかからないのでしょうか？

例えば、くしゃみをして手で口を覆いました。その手にはくしゃみと共にツバや痰、菌やウイルスも付きます。その手で扉を開けます。

写真で分かるように、扉にはたくさん手が触れています。手の跡が菌やウイルスというわけではありませんが、手洗いをせず触れた所には、この跡のように菌やウイルスを付けているかもしれません。そのため、扉を触った手で目や鼻や口に触れ感染するかもしれません。

扉が抗菌加工されていても、手がふれたところに菌やウイルスがくっついていれば感染する危険性はあります。

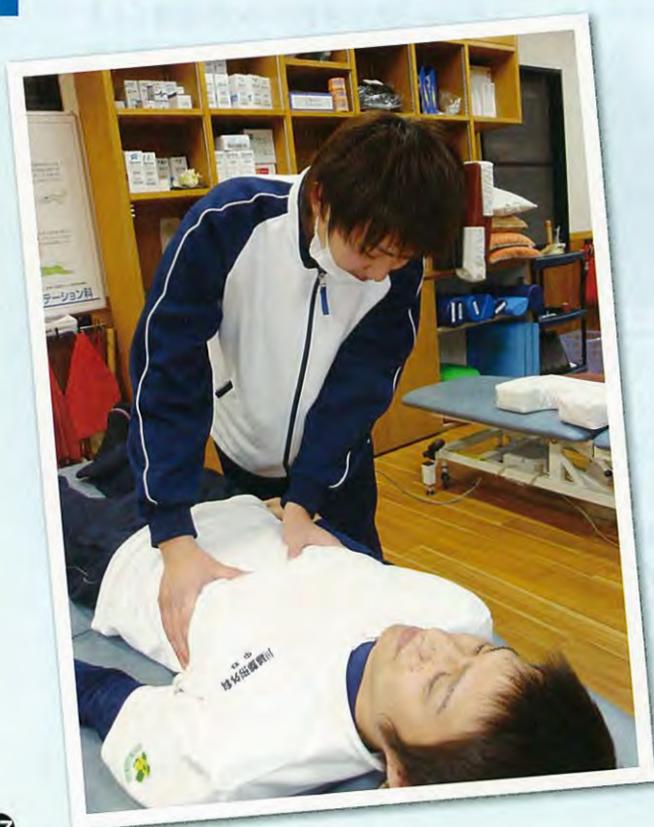


では、私たちは感染症にかからないために何をすれば良いのでしょうか？

不必要に抗菌や除菌をすることではありません。ありふれていますが基本は手洗いです。そして、規則正しい生活、バランスの良い食事、良い環境、咳エチケット、休息、睡眠などです。

南部ブロック活動報告

Southern part block activity report



本年度の新しい取り組みとし、外部講師をお呼びしてのブロック研修会を企画・開催しました。第1回目は、文京学院大学准教授の柿崎藤泰先生から、胸郭の病態運動学についての講義を。第2回目は、広島国際大学の木藤伸宏先生から、ハンドリングを含めた講義を。第3回目は、九州中央リハビリテーション学院の高濱照先生からテニス動作に着目しての上肢機能の使い方に関し、実技を交え講義をおこなっていただきました。実習地訪問後の、夜間の時間に、2時間程度の講義をお願いしたのですが、3人の先生共に、快く引き受けてもらえ、熱心に話をしてくださいました。南部ブロックの会員からも、多数の参加がありました。宮崎市ブロックからも2名の参加があり、来年度からは、南部ブロック以外の会員にも、連絡をまわしていこうかと考えています。一応、来年度も4名の先生に講義をしてもらう予定で、話をすすめている所です。

また、かねてから考想の中にはあるのですが、南部ブロックゴルフコンペを、今年こそは、開催したいと考えています。その際には、是非、南部ブロック以外の方も参加して頂き、継続行事としてやっていければと思っています。

南部ブロック 部長 押川 信昭

平成21年度 理学療法基礎系理学療法研究部会研修会報告

テーマ：「動作分析の基礎と動作の定量化 ―研究方法論を含む―」

講師：大阪電気通信大学 小田 邦彦先生

日時：平成21年11月28日(土)・平成21年11月29日(日)

会場：宮崎リハビリテーション学院

受講者数：36名

この度、当研究部会の研修会として大阪電気通信大学の小田先生をお招きし、上記内容にて研修会を開催いたしました。

研修会の内容としては、1日目は動作分析の定量的手法の再確認をテーマに講義を行ってもらい、2日目は主に三次元動作解析装置や簡易重心動揺計を用いてのデモンストレーションを見せていただきました。講義で聞いた内容を実際の機器で視覚的に情報を得ることができ、参加していただいた皆様にも分かりやすい講義内容だったと思いますし、すでに開催まで2年を切りましたが、宮崎での全国学会に向けてこれから研究活動を行おうと考えていらっしゃる方々にも良いきっかけとなったのではないかと考えています。

現在、当研究部会では年1回程度研修会を開催しておりますが、このような研修会をきっかけに我々理学療法士の技術向上や宮崎県理学療法士会の活動の活性化とあわせて、サービスを提供させていただく方々のQOL向上の一助になればと思います。

理学療法基礎系理学療法研究部会 部長 新地 友和

平成21年度 第1回骨関節系理学療法研究部会研修会報告

テーマ：「臨床機能解剖と触察―Lower Quarter―」

講師：文京学院大学保健医療技術学部 准教授 山崎 敦先生

講師 具志堅 敏先生

昨年9月5日(土)6日(日)の両日、上記の研修会を64名(非会員1名)の参加により宮崎リハビリテーション学院にて開催いたしました。触察セミナー2回目の今回は、体幹～下肢を中心に実技も含めまして御講演頂きました。触察は理学療法士が臨床推論を展開していく中で非常に重要であり、セラピスト(治療者)として大変重要な技術です。例えば、膝関節内側の痛みの場合、痛みの部位が縫工筋なのか半腱様筋なのか、内側膝蓋大腿靭帯なのか等によって、動きの予測や痛みの発現機序等の推論を展開していく上で大きく異なってきます。しかし、現状の学校教育だけでは不十分と言わざるを得ません。研修の内容としては、今回の研修会だけでは企画上の問題(時間と人の制約等)で決して十分とは言えませんが、臨床に必要な考え方も含めて少しでも臨床に

還元できる内容をお願いし、御講義頂きました。今回提示していただいた臨床機能解剖や臨床運動学に関する様々な情報は、臨床にとっても役立つものがたくさんありましたが、これらを基にしっかりと「臨床推論」を展開して頂きたいと思います。尚、「臨床推論」については、今後も研修会を企画していきます。我々が人として臨床家として、患者様の期待にしっかり応えられる存在となり得るよう、研究会のあり方を含めてさらに検討して行きます。



骨関節系理学療法研究部会 部長 常盤 直孝

平成21年度 内部障害系理学療法研究部会研修会報告

平成21年度は2回の研修会を企画、開催致しました。

第1回(平成21年8月29日～30日)は、兵庫医科大学病院より眞淵敏先生を招き「呼吸理学療法2009～基礎から呼吸理学療法の実践まで～」をテーマに78名(会員:70名、非会員:8名)を対象に開催致しました。1日目は呼吸リハビリテーションにおける基礎的知識から臨床への展開について講義を頂き、解剖学的知識から呼吸生理、また呼吸不全における病態など基礎から応用まで幅広く学んでいきました。2日目は呼吸介助、排痰手技について実技を中心に行い、特に呼吸介助の実技においては参加者同士がお互いの介助方法を確認合いながら学んでいくことで、その後の臨床に直結していけるテクニックを習得できたのではないかと思います。

第2回(平成21年10月31日～11月1日)は、兵庫医療大学より高橋哲也先生を招き「理学療法におけるリスク管理～運動療法の進め方～」をテーマに104名(会員:102名、非会員2名)を対象に開催致しました。こちらでも講義と実技を行いながら、離床から運動療法施行におけるリスク管理について実際の症例を提示しながらのケーススタディーを行うことで、具体的なリスク管理の方法について学ぶことができました。私たち理学療法士が理学療法を進めていく上で最も重要なリスク管理について、循環・呼吸・代謝におけるそれぞれの知識を得ることができたと思います。また本研修会ではリスク管理に留まらず、運動療法の方法や最新のトピックスについても学んでいきました。

今年度は両研修会共に定員を超える多数の申し込みを頂きありがとうございました。研修会後のアンケート内容からも、内部障害に対する会員の意識の高さを感じております。またその中で当部会研修会に対する多くの意見も頂いております。そのため今後も皆さんの意見を可能な限り反映させながら、より充実した研修会の企画、開催を行ってまいります。そして他職種も含めた県内における内部障害系理学療法のレベル向上・地域社会への貢献に努めていきたいと考えています。その一環として、平成22年度は新人会員を対象とした定期勉強会も開催していく予定です。

今後も引き続き、当部会活動への皆様のご協力をお願い致します。

内部障害系理学療法研究部会 部員 吉田 裕一郎



今年度部会研修会を平成22年1月31日(日)に古賀総合病院において、テーマ:『運動学習・運動制御理論の理学療法への応用』と題して、この分野での第一人者であります茨城県立医療大学 保健医療学部 理学療法学科 教授 大橋ゆかり 先生を講師にお迎えし、講義を4コマ、85名の参加者で開催しました。

内容は、「心理学系理論の展開と臨床への示唆」・「生理学系理論の展開と臨床応用」の観点に心理学理論では「スキーマ理論」・「技能獲得の方法論」(フィードバック・課題配置)、生理学理論では「ダイナミカル・システム理論」を理学療法との関係で用いり、如何に応用できるかを提唱される講義でした。

具体的には、

- ・一般化された運動プログラム:GMP (generalized motor program) 歩行周期はその人できまっている・文字を書く場合に相対強度が等しい
- ・情報処理理論の応用として、学習を促進するFB(フィードバック)の与え方、課題の提示→試行→FBの付与、またこれらの作用
- ・スキーマ理論の応用:恒常練習はGMP学習を促進し、多様性練習はパラメータ学習を促進する「運動感覚の先取り学習」
- ・古典的な学習理論の応用(技能獲得の方法論)に、外的・内的動機付け・学習の転移
- ・運動学習理論を背景に持つ:Carr&Shepherdの介入モデル~どのように獲得させるか
- ・運動制御理論を背景に持つ:Shumway-Cook&Woollacottの介入モデル~何を獲得させるか
- ・システムズ理論:運動制御は脳だけが占有する特権ではない「適切な運動」

について、研究結果から・事例・症例・デモを通して、運動学習の理論や方法論を理学療法の評価・効果判定に適用・応用し、障害を持つ人がある運動課題に取り組んだ際の課題の達成度に反映していることでした。

我々が、日頃臨床において実施している理学療法について、理論付けし、運動・動作が影響を及ぼす要素になるのか再考していきたいです。

神経系理学療法研究部会 部長 忠谷 深



宮崎県理学療法士会ホームページ

http://m-pta.com/

宮崎県理学療法士会 |

**新着情報や学会のお知らせなど役立つ情報満載!!
是非、お役立て下さい。**

編集後記

2010年が始まり、あつという間に春が目の前にやってきた今日この頃。年を重ねるたびに1日、1ヶ月が凄いいスピードで過ぎていく気がしています。

新年度を迎えるこの時期、特にこの4月からは診療報酬の改定もあり、何かと慌しい日々が続いています。また、桜咲くこの季節は、門出の時でもあり、今まで共に働いてきた仲間との別れがあり、そして新しい出会いから刺激を受ける時でもあります。人との出会いから、自分にとってよりプラスとなる刺激を受け、人として女性として、また理学療法士として、もっともっと成長していきたいと思っています。

さらに、寒い冬の間になまけて蓄えた、下っ腹とお尻のぜい肉にも別れを告げるべく、「脱洋なし体型」を目標に掲げ、日々精進していきたいと思えます。

